《第１５２号》　2010年５月創刊　　7月2日発行　2023年7月号

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

海の主日

「海の主日特祷」

全能の神よ、あなたの道は海の上に、あなたの歩かれる小路は大海の上にあります。どうか、深い淵の上で多くの危難に出会う人々と共にいてください。船員たちをすべての危険から守り、その航海を幸いなものとし、主のいつくしみを感謝しつつ、ついに望む港に着くことが出来ますようにお導きください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**

７月９日（日）は本聖公会で「海の主日」と定め、海で働く人々のため、またその人々に対して宣教と奉仕の業を行っているミッションズ・トゥ・シーフェアラーズ（ＭｔＳ）のために祈りを捧げます。

ミッションズ・トゥ・シーフェアラーズは英国国教会を母体とした宣教団体であり、世界中の港を中心に活動を展開していて、日本では苫小牧、横浜、神戸にセンターがおかれています。また詳しい経緯や活動内容は分りませんが、この姫路顕栄教会もその一端を担っていた時期があったとのことです。

現在、元町の神戸のセンターは改築中で、仮事務所が別の所で借りられていますが、以前の神戸のセンターには礼拝堂と共にカウンター・バーがあり、ビリヤードなどの娯楽施設、そして数多くのパソコンが並んでいました。船員の方がセンターに来て安価に楽しめ、またインターネットで家族との連絡がとれるようにとの配慮からです。

このミッションズ・トゥ・シーフェアラーズの設立は１８５６年で、１７０年近い歴史があります。その発端となった出来事は次のように伝えられています。「ある牧師の親子が港を散歩していた。父親の牧師が大きな船を指さし、連れていた男の子に『あの船は遠い外国から何ヶ月もかけて大切なものを運んでくるんだよ』と言った。子どもは驚き、目を丸くして『え、何ヶ月も？その間、日曜日の礼拝はどうするの？』と言った。それを聞いた父親の牧師はハッと気が付いた。海という厳しい環境で家族と離れ、孤独を強いられながら働いている彼らの働きのお陰で自分たちの生活の根底が支えられている。そのことに気付きもせず、感謝もせず、また彼らに心も配っていなかった。そう思ったその牧師はそれから港に行っては船員達のケアーに努めるようになった。その働きからミッションズ・トゥ・シーフェアラーズ（ＭｔＳ）が始まったということです。

「エッセンシャル・ワーカー」という言葉があります。コロナ禍のような緊急事態下においても簡単にストップするわけにはいかない仕事に従事する人々への尊敬を込めた言葉です。これはＭｔＳ設立時の契機となった一牧師の気付きに似ていなくもありません。

海の主日にあたり海で働く人々と共に、私たちの日常生活を支えてくださっている、そうしたエッセンシャル・ワーカーの人々のことを覚えて感謝したいと思います。